

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878

平成27年
6月5日(金)
天気晴
田植はい
まる

毎年恒例の田植が
はじまりました。今年も中
部保育園にアスアだ
と保育園が合流して
子供達の楽しそうな
声が住宅街に響いて
みんな楽しそうに初めての
田植に励みをおこして
今年も子供達の人数も
大変多く道路の危険
も考えて警察の許可も
得て一時通行止めにして



活動実施した為
移動がスムーズに
進み事故もなく
終了しました。
おもしろいこと
です。



現状の子供
達の日常生活
は皆学校
と塾の往復
のみです。
その中で
体験を
する機会を
もたないか
ら、現状で
この子供も
遊びが育み
まされるか
を改めて考
えてみるこ
とが、家庭
で育てるの
です。



庭や田畑の邪魔者あつかいされる雑草等
だが実は自然の多様性を保つうえで
土耕し代掻き 重要な役割を担っている。

私達は自然の恵み
のなかで暮らしてきた。
だから今も大入りは
山の谷あいにはつねに
清水が流れ木や草
は野山に当たり前
のうちに育ち花を
け、実るものである
かのびるに思いつく
の園土で注ぎこきた
しかし日本のまに水
に恵まれ草や木が
茂り森も伐採してま
ずくに樹木を再生し
てくまの園土は
地球上にそんなに多
くはない。開発先進国
のなかで園土の70%に
森があり野生のサル
が住んでる園土は日本
だけだ。こんなにも



自然に恵まれた園土は
世界的にもめずらしい。

